

## S-BITS とマイクロソフトの協業にあたって

南 出 立 自

S-BITS の準備プロジェクトというかたちでマイクロソフトが最初に S-BITS に参画させていただいたのは 2002 年の終りでした。準備プロジェクトは 2003 年 3 月に一旦終了いたしました。その懇親会の席で統括プロジェクトマネージャより次のような趣旨のお言葉をいただいたのを記憶しております。

「マイクロソフトは経営に十分成功しているのに、なぜ今からこのミッションクリティカルという利益よりも苦労が先行する分野に参入しようとしているのですか」

もちろんマイクロソフトとしても参入に際しその意義と価値を十二分に見出していました。コンサルティングサービス本部の中には、ミッションクリティカルシステムの開発と運用の経験者がおりましたので、そのメンバーはみな、またあの過酷な責務を遂行する日々が来るかもしれないという使命感に身を引きしめていました。

2004 年になって米国マイクロソフトのメンバーを S-BITS プロジェクトに組み入れる体制が整い、設計内容が明らかになるにつれ、当時開発中だった SQL Server 2005 の機能を限界にまで引き出そうとする S-BITS 勘定系基盤設計の試行錯誤に、US の開発チームも驚きを隠しませんでした。S-BITS 勘定系基盤設計では、同期型データベースミラーリングをデータセンター内の高可用性機能の一部として位置づけ、災害対策としてログ配布を採用しようとしていました。こんにちの US 開発チームの技術セミナーでは、複数の高可用性機能を組み合わせて使用することの優位性が説明されているほどですから、US 開発チームの高可用性に対する考え方も、S-BITS プロジェクトによって洗練されたということができるでしょう。

S-BITS プロジェクトとマイクロソフトの協業についてふり返るとき、マイクロソフトテクノロジーの提供という側面からだけでなく、様々なプロセスの中での協業についても記録に残しておきたい活動がありました。プロジェクト期間中、四半期毎に行われた日本ユニシス、ユニシスコーポレーション、米国マイクロソフト、マイクロソフト株式会社の 4 社会議をはじめ、2004 年に隔月のペースで行われた技術会議や、S-BITS 勘定系テストシステムでのマイクロソフトメンバーによるテストの遂行、米国マイクロソフト開発チームテストラボでのユニシスメンバーによるテストの遂行などです。

技術会議では、米国マイクロソフト開発チームのメンバーが中心となって、ミドル層を含む S-BITS 勘定系基盤設計レビューを集中的に行わせていただきました。この会議の準備のために、ユニシスメンバーと日本のマイクロソフトメンバーで、事前に設計内容についてディスカッションする時間をいただきました。また、技術会議に使用する資料の英訳をお願いしたこともありました。米国マイクロソフト開発チームが会期中に意味のあるメ

ッセージを伝えられるように、マイクロソフト内でセッションをもち、米国側の担当者と日本の担当者間でディスカッションをくり返す必要がありました。一週間の間に3日間それぞれ3時間の電話会議を行ったこともあります。

2006年の初めには、S-BITS 勘定系テストシステムをまるごと米国マイクロソフト開発チームのテストラボに構築し、データベースミラーリングのパフォーマンス検証を実施しています。慣れない環境でのテスト環境構築に時間を要したため、ユニシスメンバーは月曜から土曜日までテストラボで作業されました。このテストでは、S-BITSプロジェクトの要求するチューニング上の問題に対する解答と、米国マイクロソフト開発チームが見落としていたいくつかの改善点を発見することができました。テスト期間中に開かれたランチパーティーでは、20名を超えるSQL Server デベロッパーが参加する中、ユニシスメンバーによるスピーチが行われています。4 社会議や技術会議では、米国マイクロソフト開発チームのS-BITS 関係者だけが出席するのに対して、このランチパーティーでは沢山のSQL Server デベロッパーが自発的に参加してくれました。彼らがS-BITS プロジェクトにおいて学んだことは素晴らしいことです。

2006年はまた、社内にミッションクリティカルシステムをサポートする組織が立ち上がり、マイクロソフトサポートメンバーが大阪センターに常駐を開始した年でもありました。日に日に厳格さを増すテスト内容と問題管理に、サポートチームは体制を整えながら問題に対峙する厳しい日々が続きました。米国マイクロソフトからもアーキテクト2名が来日し、万が一の事態に備え本番前後計3週間にわたり大阪センターに詰めました。

S-BITS プロジェクトの開始から百五銀行様システムサービスインまでをふり返りますと、マイクロソフトのミッションクリティカルシステムに対する取組みは、まさにS-BITS 勘定系システムとともに成長したと言えます。今後S-BITS 勘定系基盤が他銀行様へ展開されるにしたがい、マイクロソフトの支援内容もその規模に値するものへと成長を続ける必要があります。

これまで製品に対するご要望を多数頂戴しましたが、現在お使いのバージョンでは、実現できず新バージョンに組み込まれたものがあります。高い信頼性のもと大量トランザクションを高速処理することが求められる過酷なミッションクリティカル環境において、新機能を搭載したWindows Server 2008、SQL Server 2008 を評価頂きますことを希望しております。また、製品の品質だけでなく、構築およびサポート要員についても、社内のサービス部門との協業により、Windows/SQL Server でのミッションクリティカルシステムに対するお客様の高いご期待に沿えるよう整備して参りたいと考えております。

(マイクロソフト株式会社コンサルティングサービス統括本部)